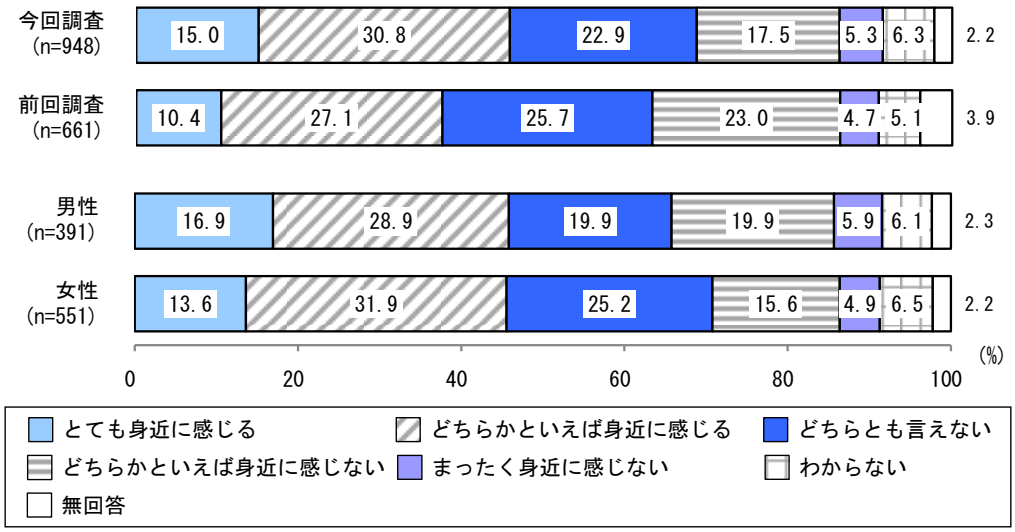
２．人権問題全般について

（１）人権に対する問題意識

問５　あなたは、「人権」を、身近な問題として感じていますか。（ひとつに○）

【図2-1-1　人権に対する問題意識（経年比較／性別）】

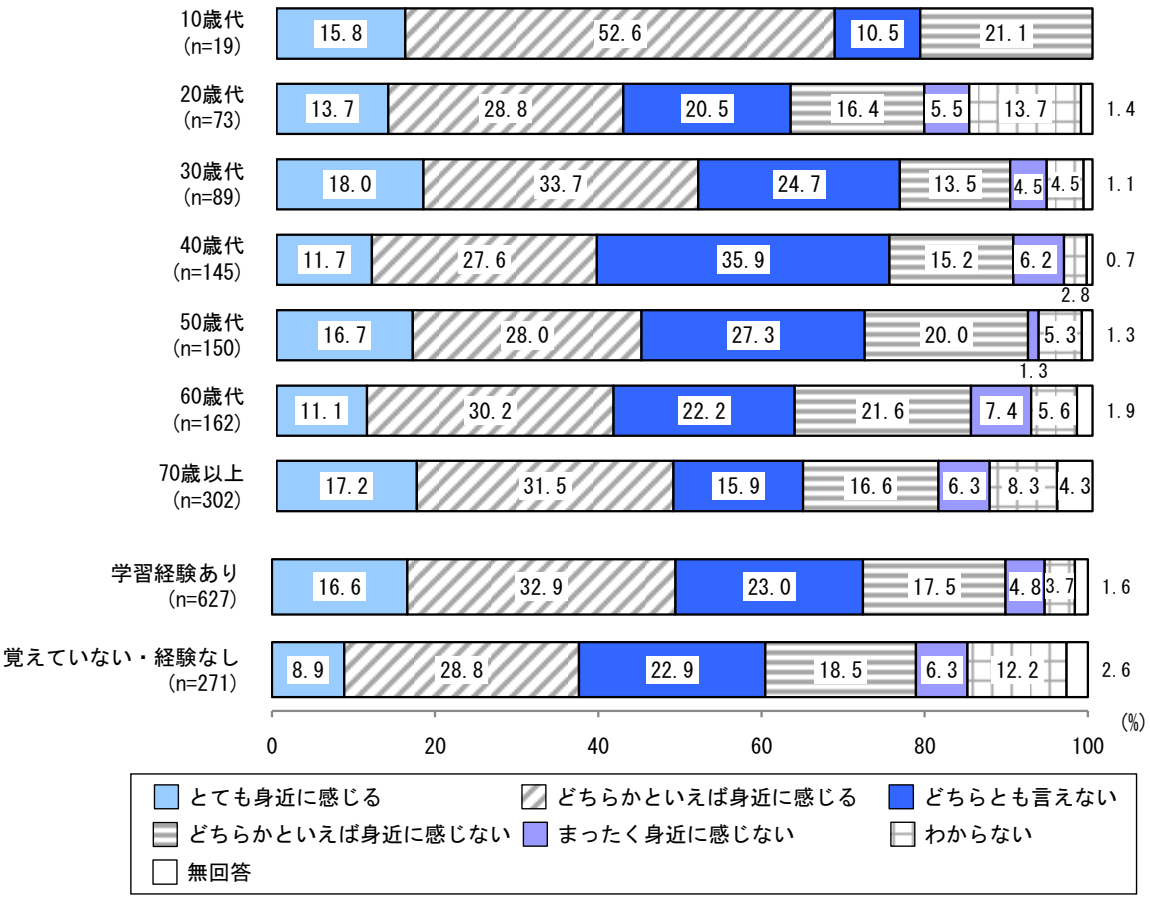


人権を身近な問題として感じているかについて、「どちらかといえば身近に感じる」が30.8％で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が22.9％となっています。なお、『身近に感じる（「とても身近に感じる」＋「どちらかといえば身近に感じる」）』割合が45.8％、『身近に感じない（「どちらかといえば身近に感じない」＋「まったく身近に感じない」）』割合は22.8％となっており、両者を比べると『身近に感じる』のほうが多くなっています。

前回調査と比較すると、『身近に感じる』割合が8.3ポイント高くなっており、『身近に感じない』割合は4.9ポイント低くなっています。

性別でみると、『身近に感じる』割合では、男性が45.8％、女性が45.5％となっており、男女間に大きな差はみられませんが、「とても身近に感じる」では、男性が16.9％で、女性（13.6％）と比べて3.3ポイント高い割合になっています。一方、『身近に感じない』割合では、男性が25.8％、女性が20.5％となっており、男性のほうが5.3ポイント高い割合になっています。（図2-1-1）

【図2-1-2　人権に対する問題意識（年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



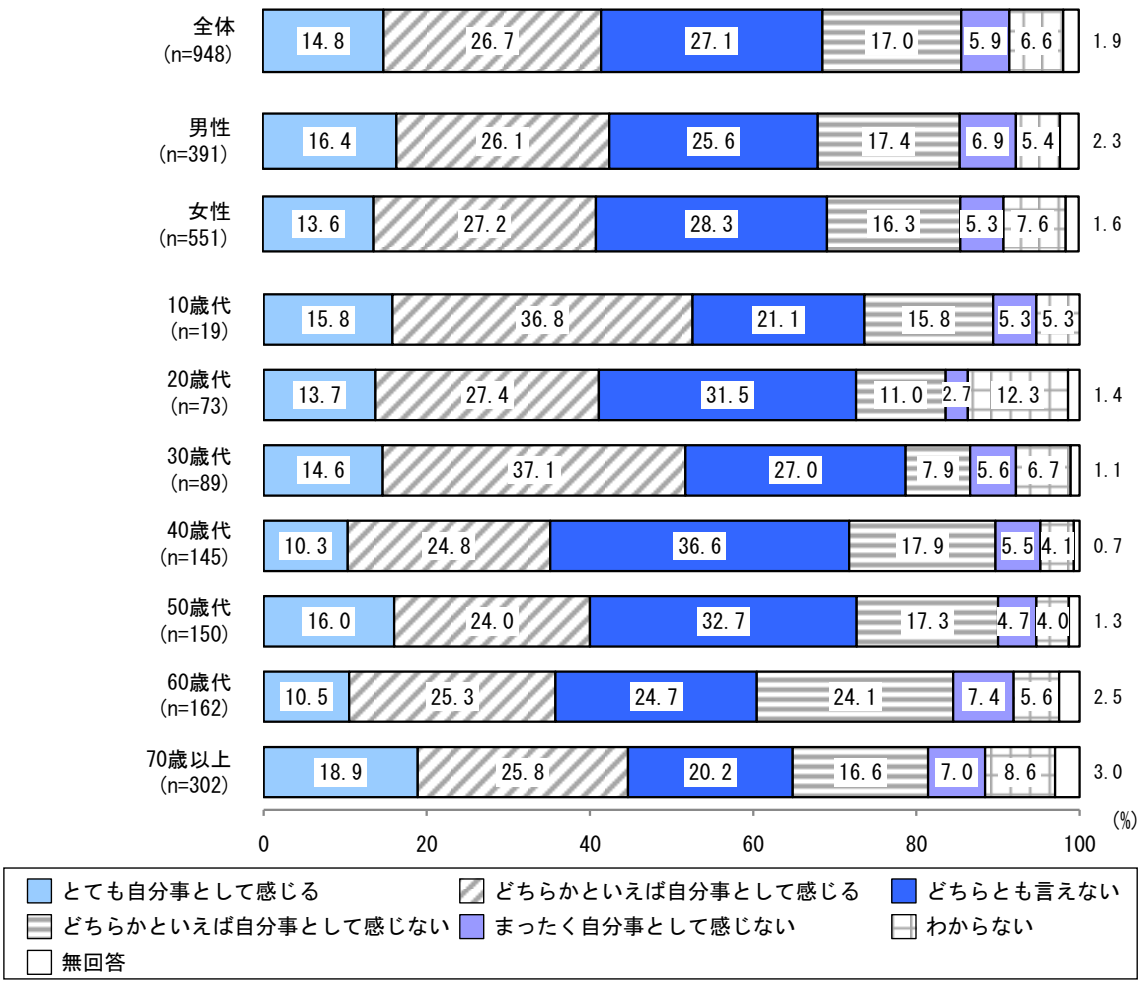
年代別でみると、『身近に感じる』割合では、30歳代が51.7％で最も高く、次いで70歳以上が48.7％となっています。一方、『身近に感じない』割合では、60歳代が29.0％と他の年代に比べて高い割合になっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、『身近に感じる』割合では、学習経験のある人は49.5％で、学習経験のない人（37.7％）と比べて11.8ポイント高い割合になっています。（図2-1-2）

（２）人権に対する意識

問５－１　あなたは、「人権」を、「他人事（ひとごと）」ではなく、「自分事」として感じていますか。（ひとつに○）

【図2-2-1　人権に対する意識（全体／性別／年代別）】

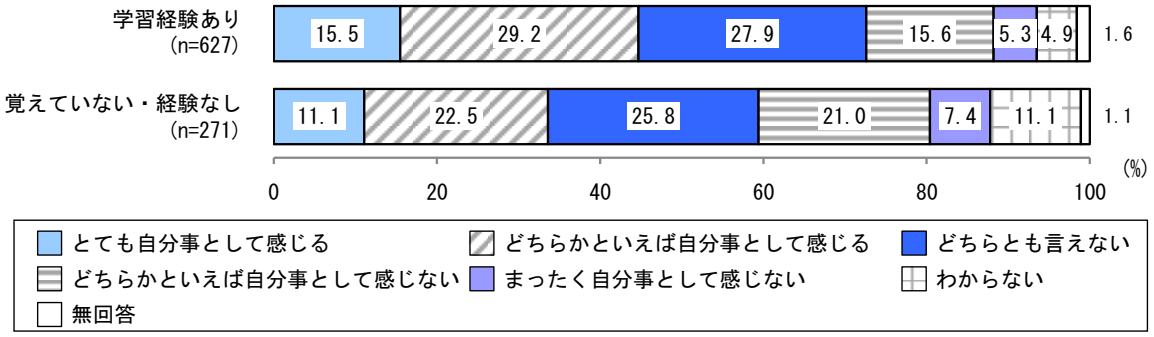


人権を自分事として感じているかについて、「どちらとも言えない」が27.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば自分事として感じる」が26.7%となっています。なお、『自分事として感じる（「とても自分事として感じる」＋「どちらかといえば自分事として感じる」）』割合が41.5%、『自分事として感じない（「どちらかといえば自分事として感じない」＋「まったく自分事として感じない」）』割合は22.9%となっており、両者を比べると『自分事として感じる』のほうが多くなっています。

性別でみると、男性は「どちらかといえば自分事として感じる」が26.1%で最も多く、女性は「どちらとも言えない」が28.3%で最も多くなっています。また、『自分事として感じる』割合では、男性が42.5%、女性が40.8%となっています。

年代別でみると、『自分事として感じる』割合では、30歳代が51.7%で他の年代に比べて高い割合になっています。これに次いで、70歳以上が44.7%、20歳代が41.1%となっています。一方、『自分事として感じない』割合では、60歳代が31.5%と他の年代に比べて高い割合になっています。（図2-2-1）

【図2-2-2　人権に対する意識（人権問題についての学習経験の有無別）】

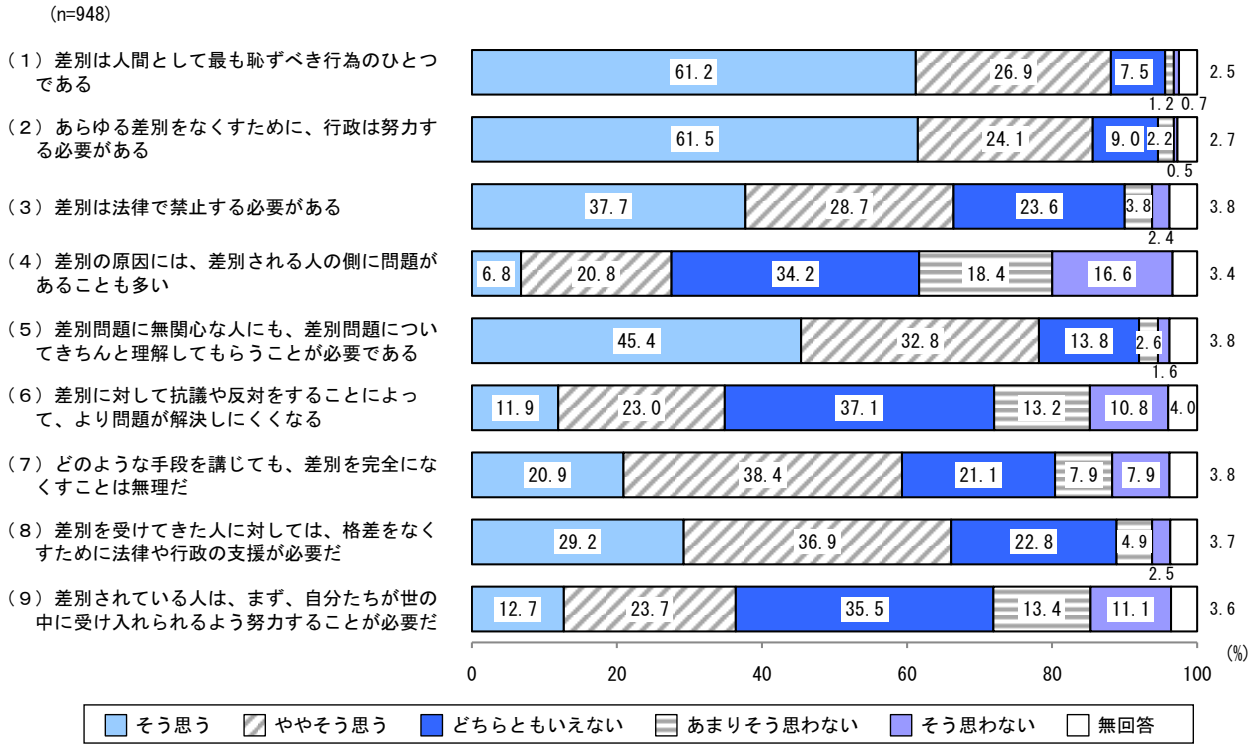


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人は「どちらかといえば自分事として感じる」が29.2％で最も多く、学習経験のない人は「どちらとも言えない」が25.8％で最も多くなっています。また、『自分事として感じる』割合では、学習経験のある人は44.7％で、学習経験のない人（33.6％）と比べて11.1ポイント高い割合になっています。（図2-2-2）

（３）差別に対する一般的な考え方

問６　一般的に「差別」というものについて、どのような考えをお持ちですか。
あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

【図2-3　差別に対する一般的な考え方】



一般的に「差別」というものについて持っている考え方として、『肯定（「そう思う」＋「ややそう思う」）』の割合をみると、“（１）差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである”が88.1%、“（２）あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある”が85.6%、“（５）差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である”が78.2%と高くなっています。

また、“（３）差別は法律で禁止する必要がある”について、『肯定』は66.4%に対し、『否定（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）』は6.2%となっています。

“（４）差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い”について、『肯定』は27.6%に対し、『否定』は35.0%となっています。

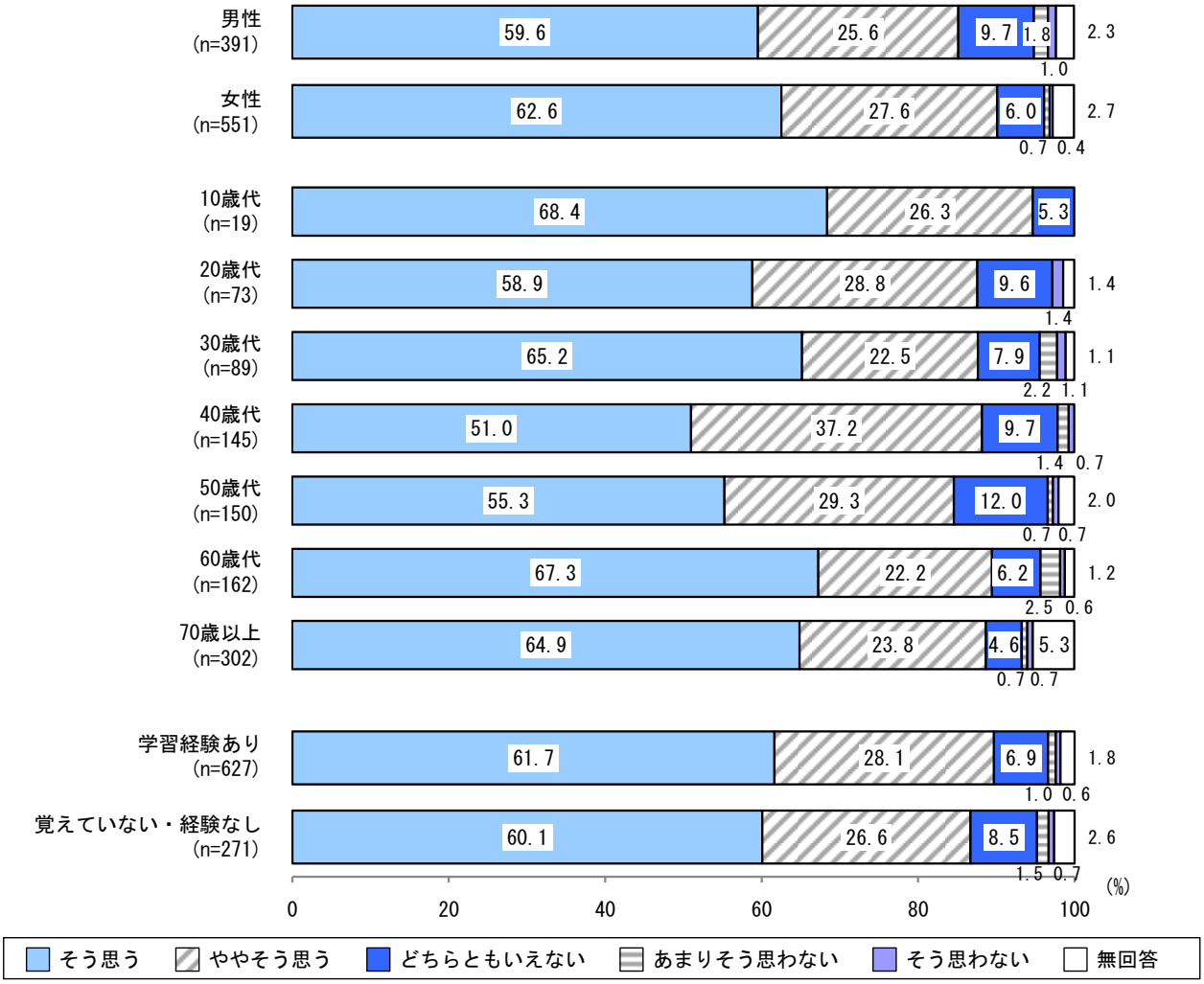
“（６）差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなる”について、『肯定』は34.9%に対し、『否定』は24.0%となっています。

“（９）差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ”について、『肯定』は36.4%に対し、『否定』は24.5%となっています。

（図2-3）

＜① 差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである＞

【図2-3①　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



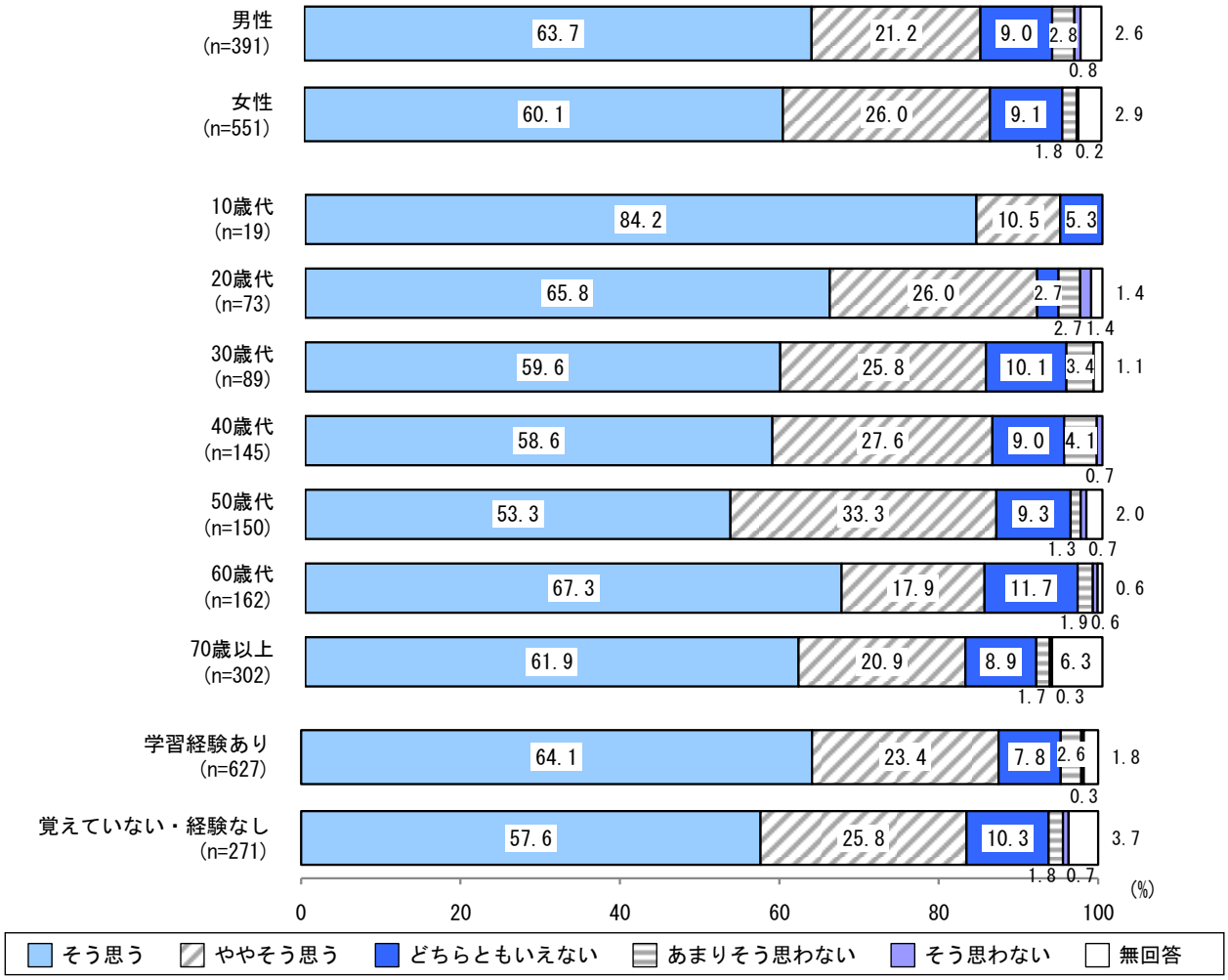
性別でみると、男女とも「そう思う」が過半数を占めています。『肯定』の割合では、男性が85.2%、女性が90.2%で、女性のほうが5.0ポイント高い割合になっています。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が過半数を占めています。『肯定』の割合では、60歳代が89.5%で最も高くなっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「そう思う」が60%台を占めています。『肯定』の割合では、学習経験のある人は89.8%となっており、学習経験のない人（86.7%）と比べて3.1ポイント高い割合になっています。（図2-3①）

＜② あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある＞

【図2-3②　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



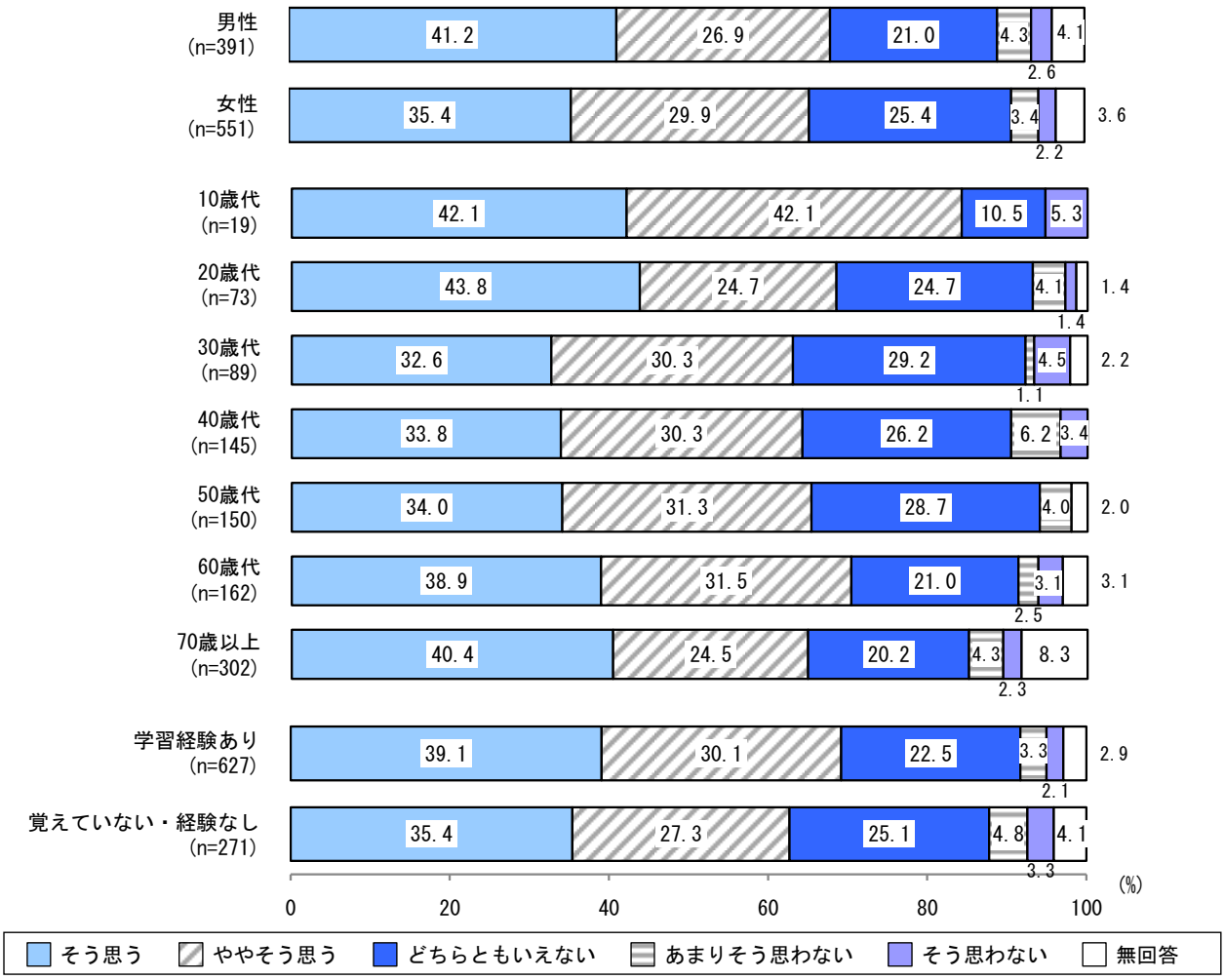
性別でみると、男女とも「そう思う」が60%台を占めており、男性のほうが3.6ポイント高い割合になっています。『肯定』の割合では、男性が84.9%、女性が86.1%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が過半数を占めています。『肯定』の割合では、20歳代が91.8%で最も高くなっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「そう思う」が過半数を占めています。『肯定』の割合では、学習経験のある人は87.5%となっており、学習経験のない人（83.4%）と比べて4.1ポイント高い割合になっています。（図2-3②）

＜③ 差別は法律で禁止する必要がある＞

【図2-3③　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



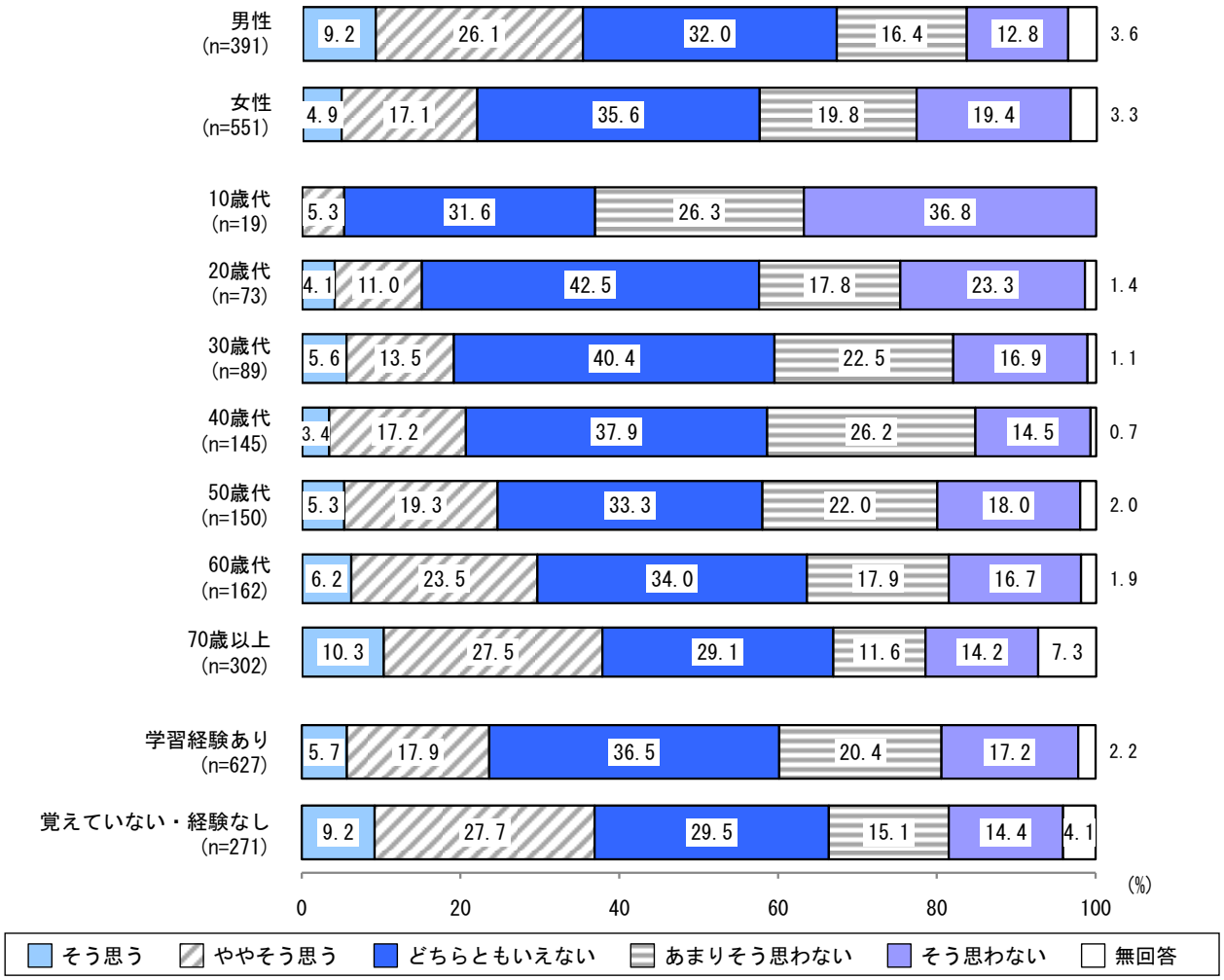
性別でみると、男女とも「そう思う」が最も多く、男性のほうが5.8ポイント高い割合になっています。『肯定』の割合では、男性が68.1、女性が65.3％となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が最も多く、20歳代では43.8％と他の年代と比べて高い割合になっています。『肯定』の割合では、60歳代が70.4％で最も高く、他の年代も60％台となっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、『肯定』の割合では、学習経験のある人が69.2％、学習経験のない人が62.7％で、学習経験のある人のほうが6.5ポイント高い割合になっています。（図2-3③）

＜④ 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い＞

【図2-3④　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



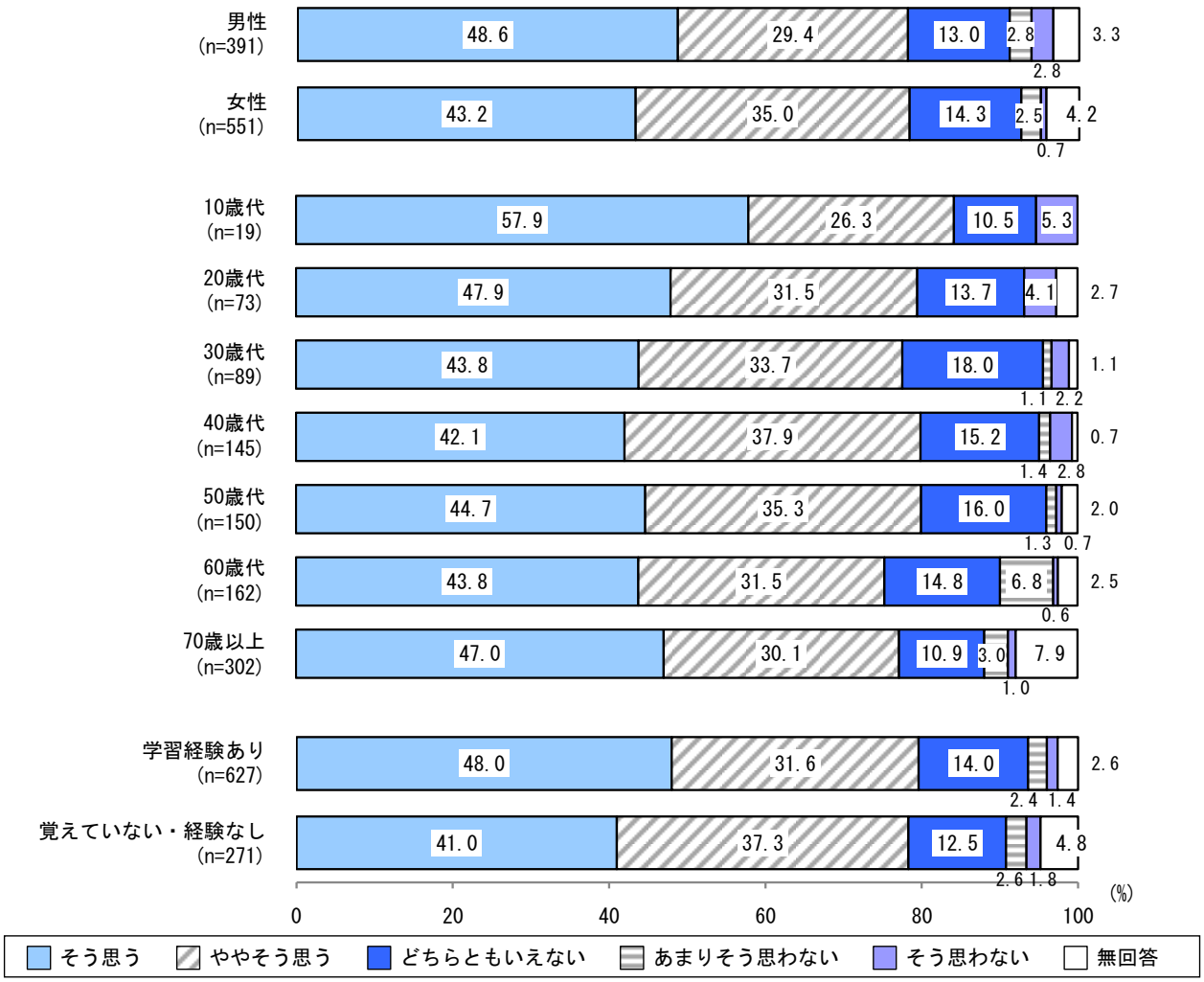
性別でみると、男女とも「どちらともいえない」が最も多くなっています。また、男性は『肯定』が35.3%で『否定』(29.2%) より多くなっています。一方、女性は『否定』が39.2%で『肯定』(22.0%) より多くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多くなっています。また、『肯定』の割合では、高齢になるほど割合が高くなる傾向にあります。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「どちらもといえない」が最も多くなっています。また、学習経験のある人は『否定』が37.6%で『肯定』(23.6%) より多くなっています。一方、学習経験のない人は『肯定』が36.9%で『否定』(29.5%) より多くなっています。(図2-3④)

＜⑤ 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である＞

【図2-3⑤　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



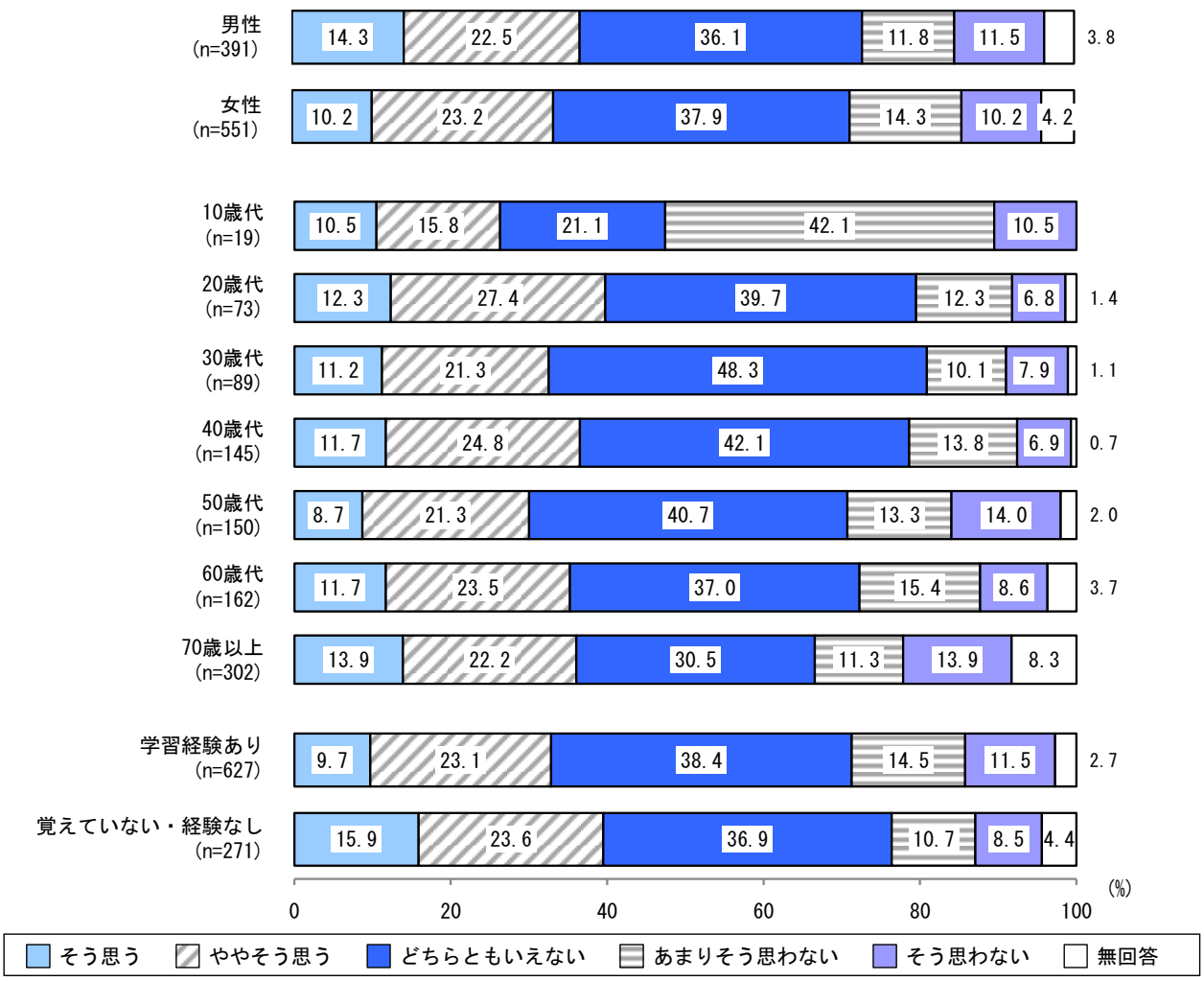
性別でみると、男女とも「そう思う」が最も多く、男性のほうが5.4ポイント高い割合になっています。『肯定』の割合では、男性が78.0%、女性が78.2%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、40歳代・50歳代とも80.0%と高く、他の年代も70%台となっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「そう思う」が最も多く、学習経験のある人は48.0%、学習経験のない人は41.0%で、学習経験のある人のほうが7.0ポイント高い割合になっています。『肯定』の割合では、学習経験のある人は79.6%、学習経験のない人は78.3%となっています。（図2-3⑤）

＜⑥ 差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなる＞

【図2-3⑥　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



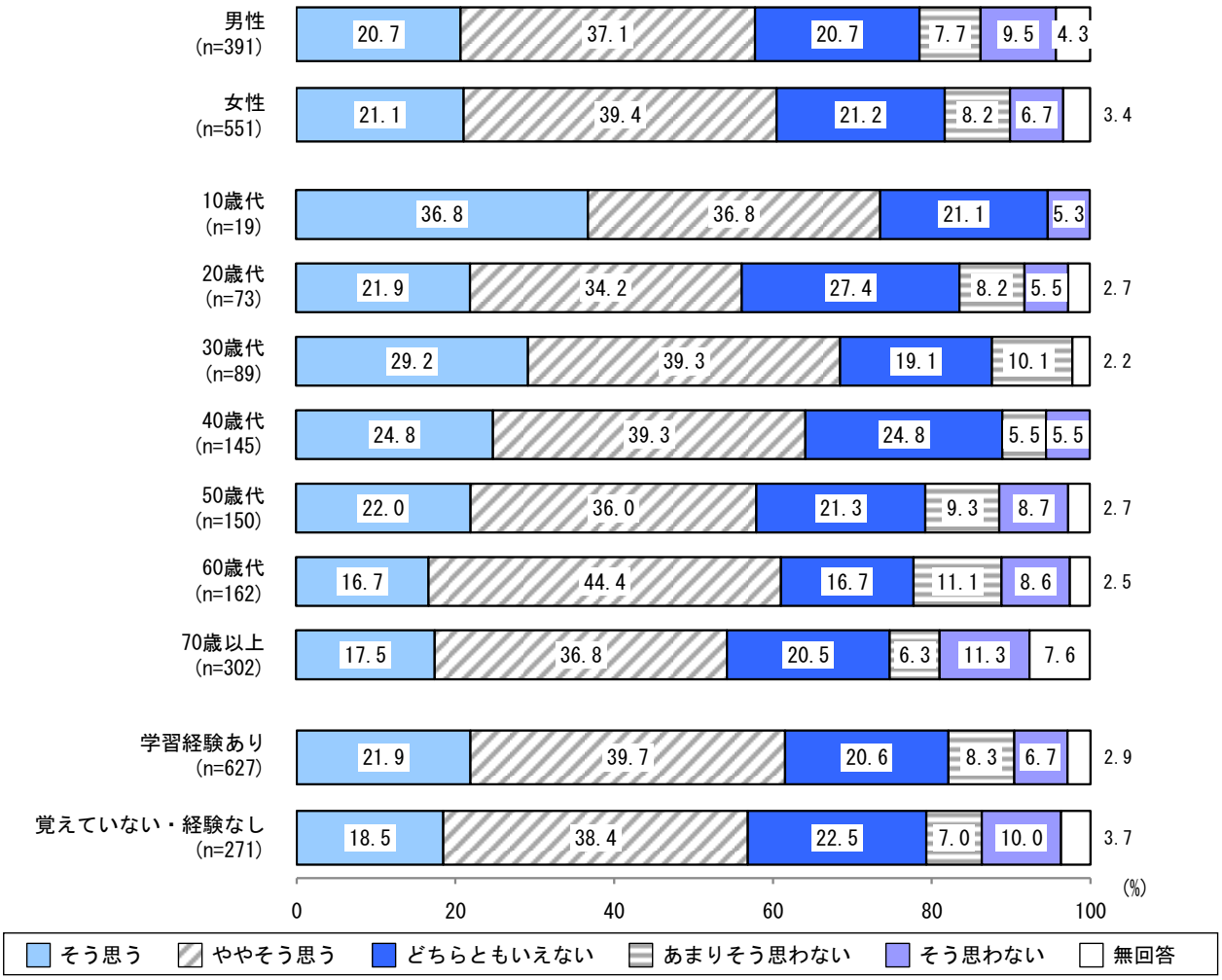
性別でみると、男女とも「どちらともいえない」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、男性が36.8%、女性が33.4%で、男性のほうが3.4ポイント高い割合になっています。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、20歳代が39.7%で最も高く、次いで40歳代が36.5%、70歳以上が36.1%となっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「どちらともいえない」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、学習経験のある人は32.8%となっており、学習経験のない人（39.5%）と比べて6.7ポイント低い割合になっています。（図2-3⑥）

＜⑦ どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ＞

【図2-3⑦　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



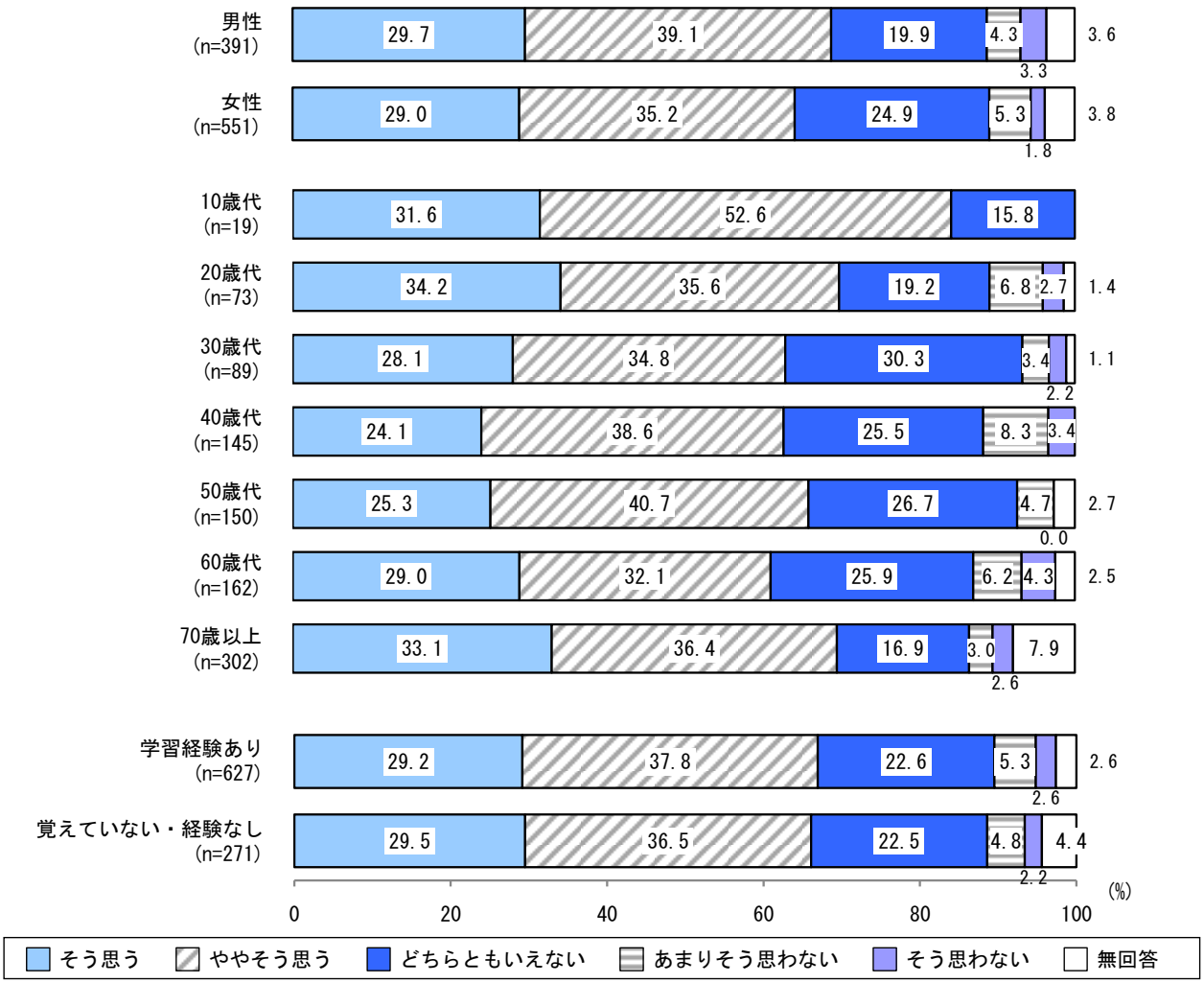
性別でみると、男女とも「ややそう思う」が最も多く、『肯定』の割合では、男性が57.8%、女性が60.5%となっており、女性のほうが2.7ポイント高い割合になっています。

年代別でみると、いずれの年代も「ややそう思う」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、30歳代が68.5%で最も高く、次いで40歳代が64.1%、60歳代が61.1%となっており、他の年代も50%台となっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、『肯定』の割合では、学習経験のある人が61.6%、学習経験のない人が56.9%で、学習経験のある人のほうが4.7ポイント高い割合になっています。（図2-3⑦）

＜⑧ 差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために法律や行政の支援が必要だ＞

【図2-3⑧　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



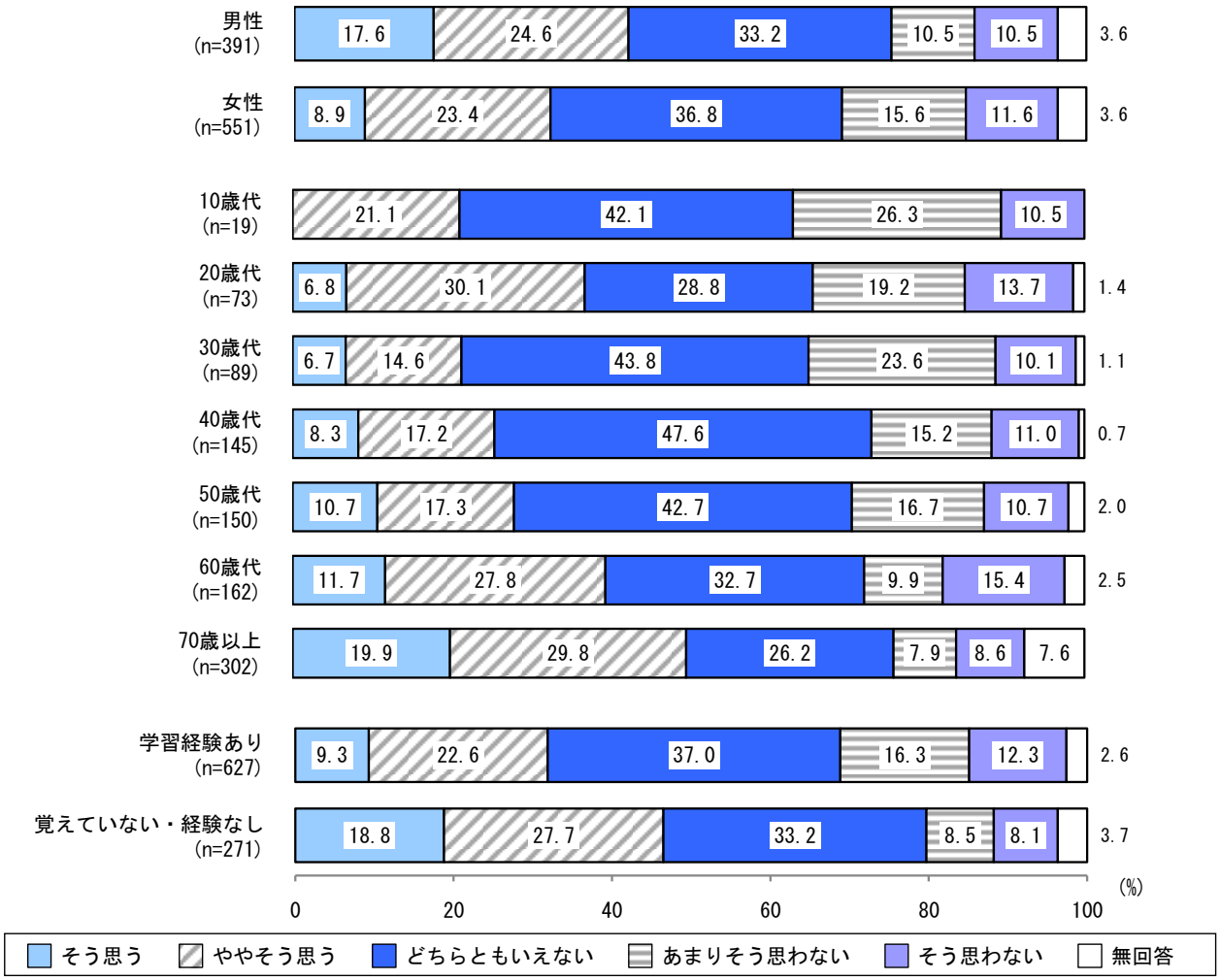
性別でみると、男女とも「ややそう思う」が最も多く、『肯定』の割合では、男性が68.8%、女性が64.2%となっており、男性のほうが4.6ポイント高い割合になっています。

年代別でみると、いずれの年代も「ややそう思う」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、20歳代が69.8%、70歳以上が69.5%と高く、他の年代も60%台となっています。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、『肯定』の割合では、学習経験のある人が67.0%、学習経験のない人が66.0%となっており、大きな差はみられません。(図2-3⑧)

＜⑨ 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ＞

【図2-3⑨　差別に対する一般的な考え方（性別／年代別／人権問題についての学習経験の有無別）】



性別でみると、男女とも「どちらともいえない」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、男性が42.2%、女性が32.3%で、男性のほうが9.9ポイント高い割合になっています。

年代別でみると、20歳代と70歳以上は「ややそう思う」が最も多く、30歳代から60歳代の各年代は「どちらともいえない」が最も多くなっています。20歳代の「ややそう思う」が30.1%と高い割合になっていますが、傾向としては、高齢になるほど『肯定』の割合が高くなっています。

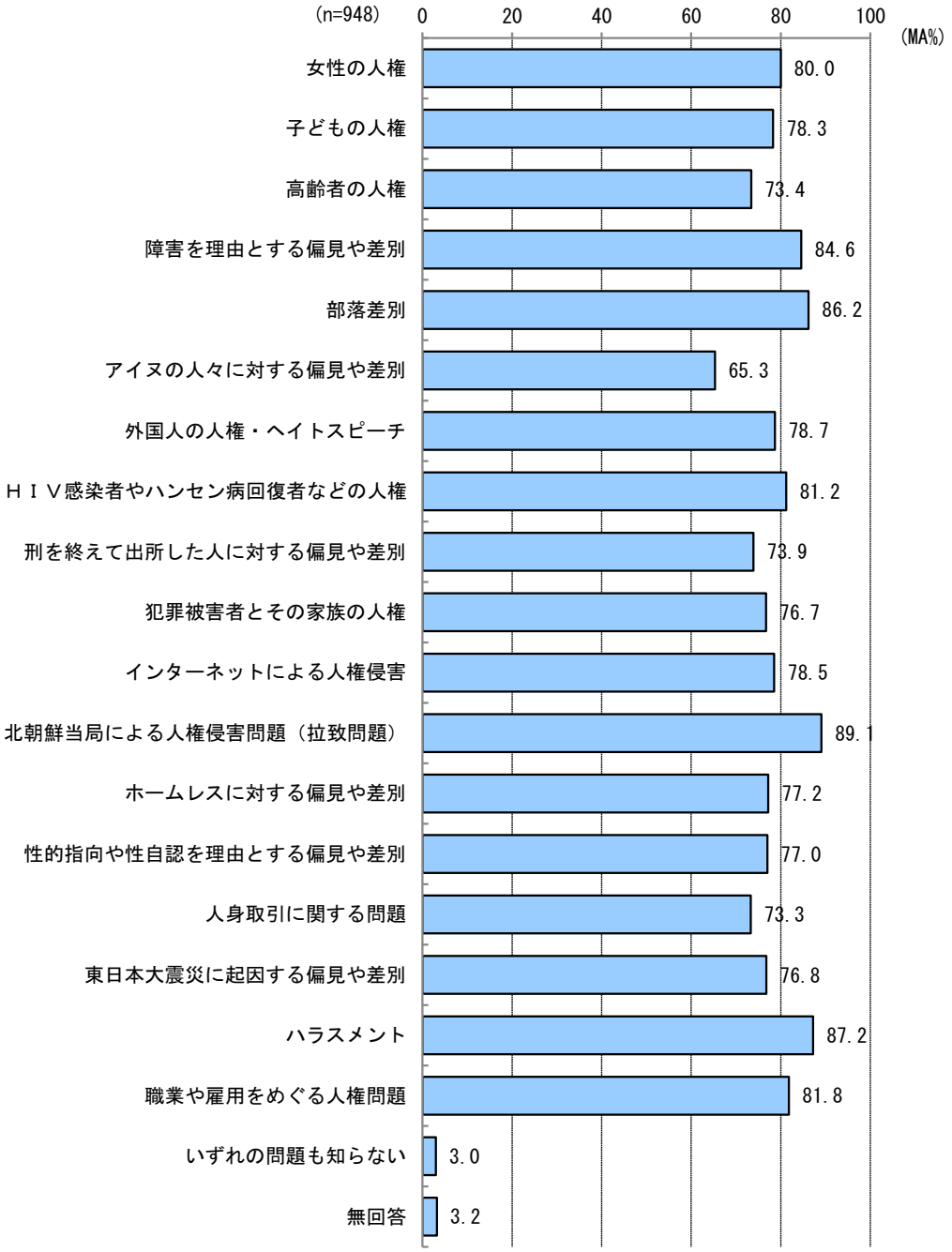
人権問題についての学習経験の有無別でみると、どちらも「どちらともいえない」が最も多くなっています。『肯定』の割合では、学習経験のある人は31.9%となっており、学習経験のない人（46.5%）と比べて14.6ポイント低い割合になっています。（図2-3⑨）

（４）人権に関する問題の認知度と知ることになった経緯

①認知度

問７　あなたは、次の人権に関する問題を知っていますか。
知らない場合は１に、知っている場合はどこから知ったのか２～９で、あてはまるもの全てに○をつけてください。

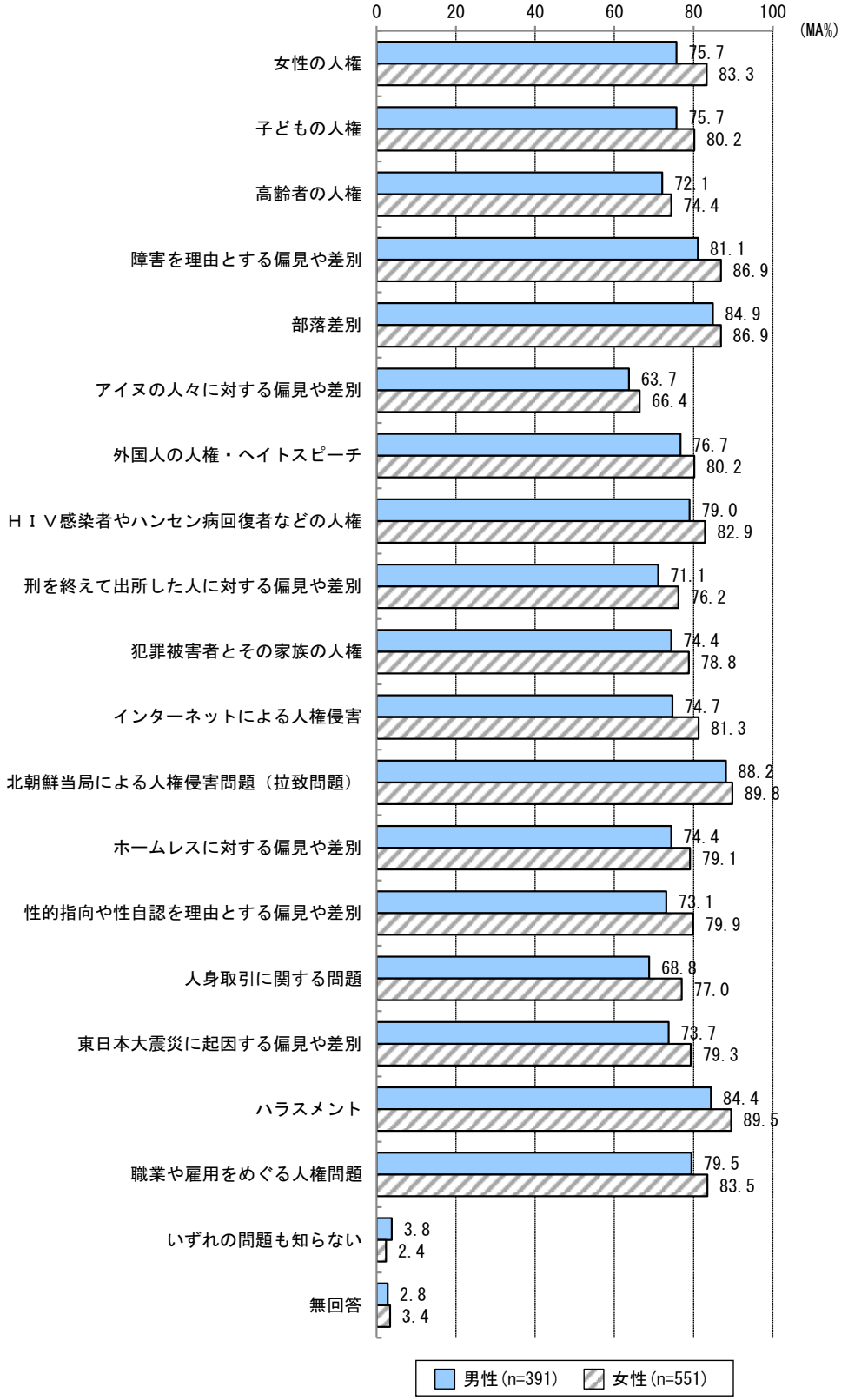
【図2-4①　人権に関する問題の認知度】



※どこから知ったかを回答した人を「知っている」とした割合。

人権に関する問題の認知度について、いずれの人権問題も「知っている」割合が高くなっています。なお、設問中で最も認知度が高い人権問題は「北朝鮮当局による人権侵害問題（拉致問題）」で89.1％となっています。一方、設問中で最も認知度が低い人権問題は「アイヌの人々に対する偏見や差別」で65.3％となっています。（図2-4①）

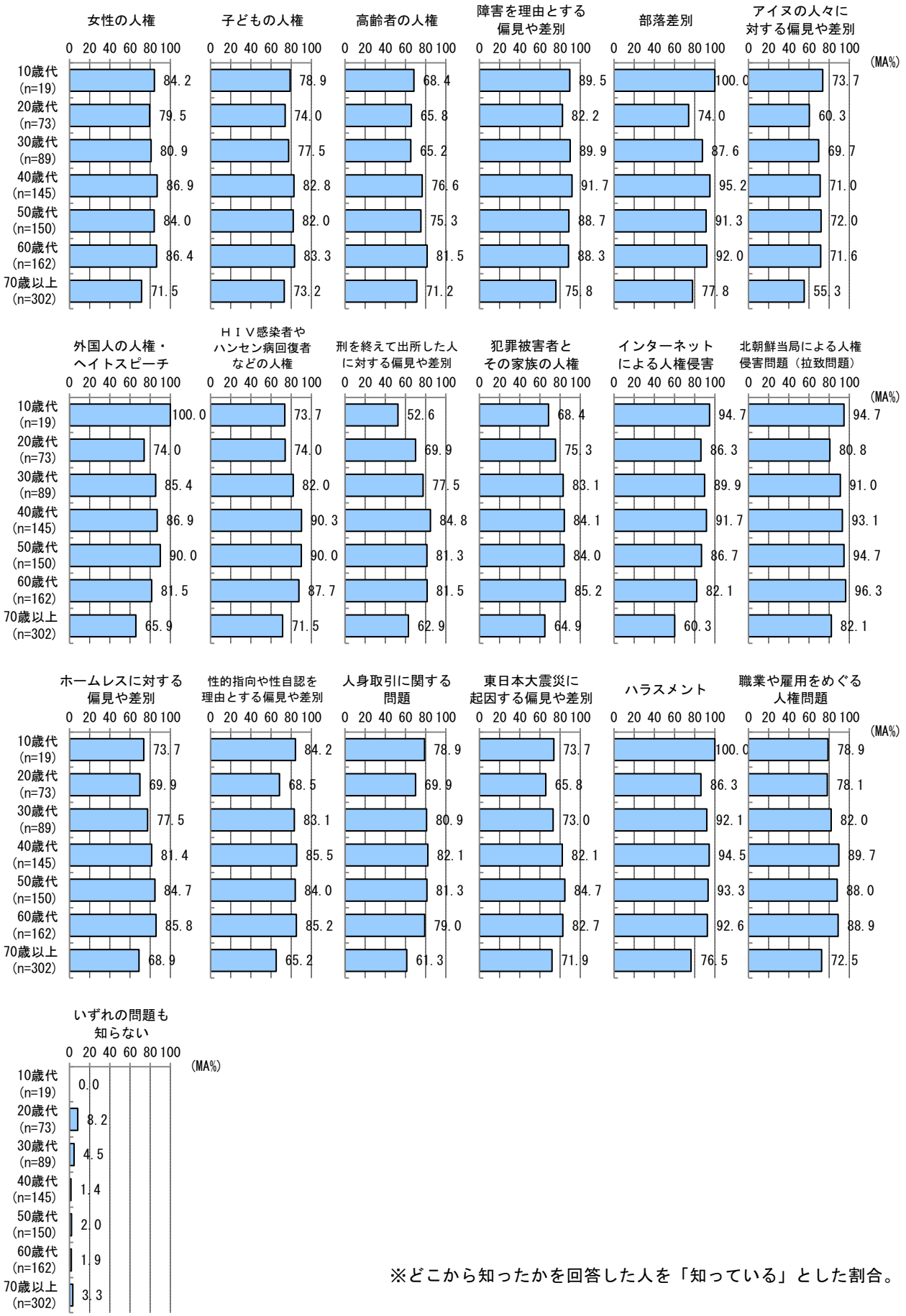
【図2-4①-1　人権に関する問題の認知度（性別）】



※どこから知ったかを回答した人を「知っている」とした割合。

性別でみると、いずれの項目も、女性が、男性と比べて高い割合になっており、男女間の差が大きい上位３項目では、「人身取引に関する問題」が8.2ポイント差、「女性の人権」が7.6ポイント差、「性的指向や性自認を理由とする偏見や差別」が6.8ポイント差となっています。（図2-4①-1）

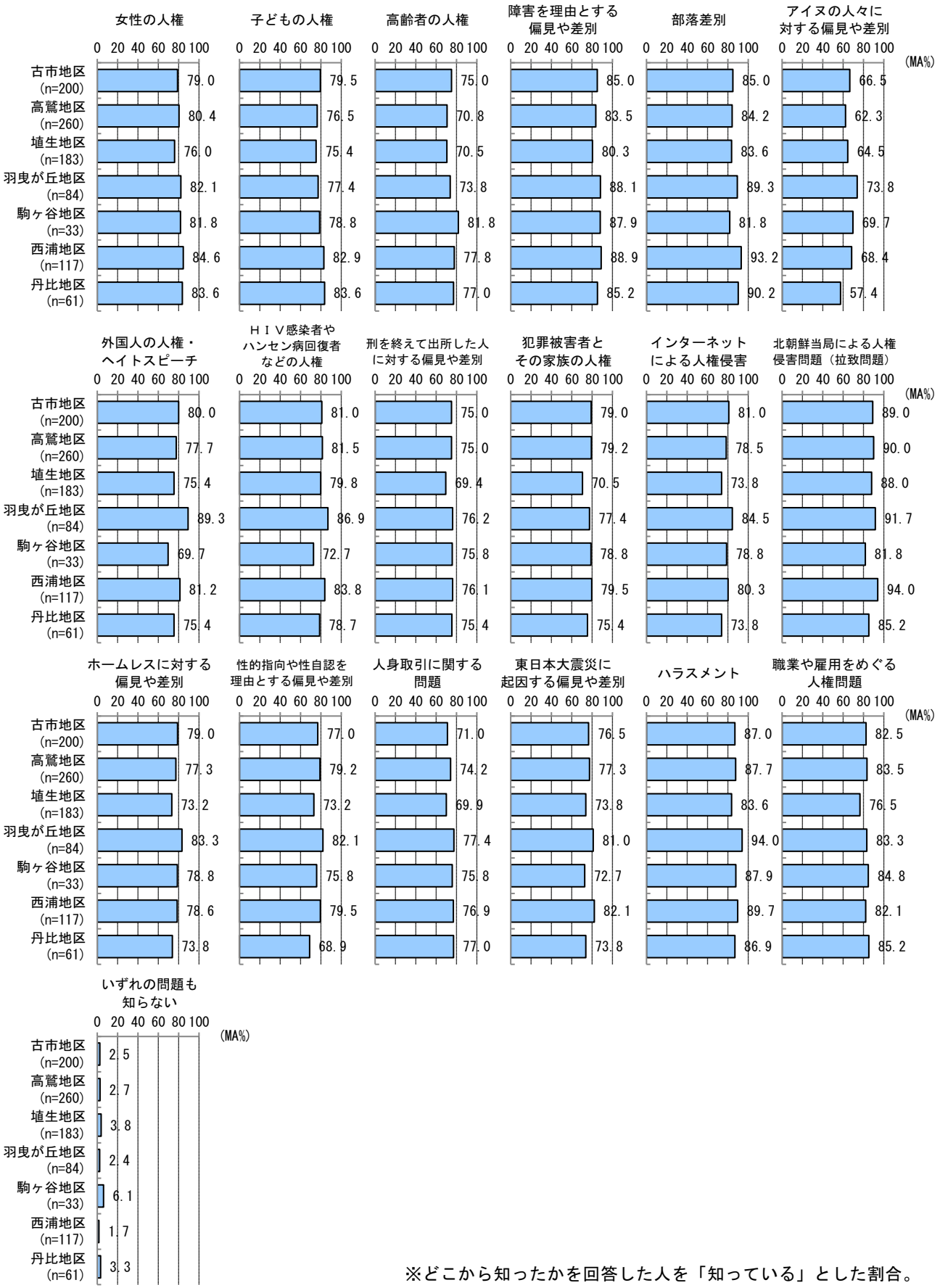
【図2-4①-2　人権に関する問題の認知度（年代別）】



※どこから知ったかを回答した人を「知っている」とした割合。

年代別でみると、多くの項目で、40歳代から60歳代の各年代が高い割合になっています。（図2-4①-2）

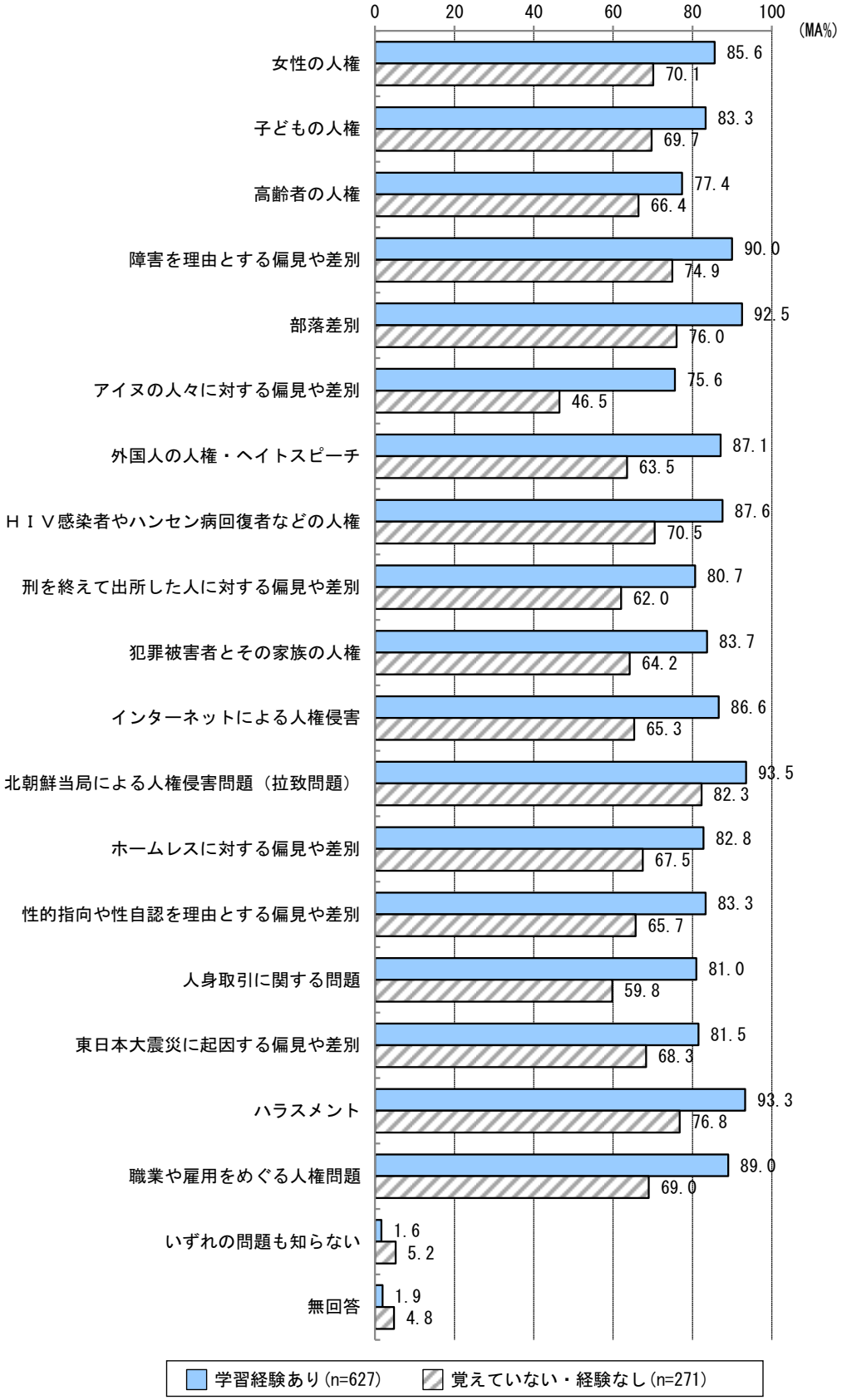
【図2-4①-3　人権に関する問題の認知度（居住地区別）】



※どこから知ったかを回答した人を「知っている」とした割合。

居住地区別でみると、大きな偏りがないことが見受けられます。(図2-4①-3)

【図2-4①-4　人権に関する問題の認知度（人権問題についての学習経験の有無別）】

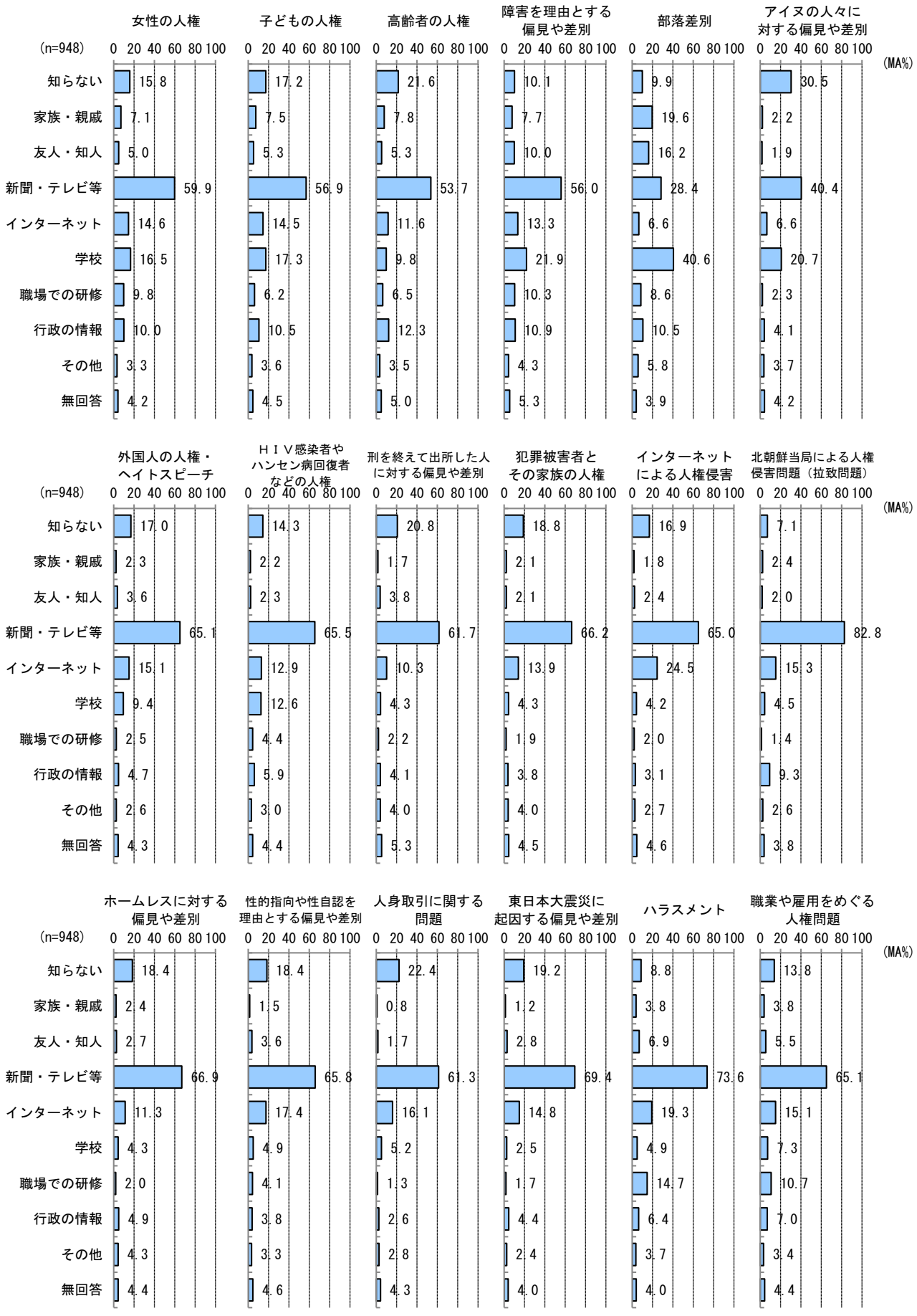


※どこから知ったかを回答した人を「知っている」とした割合。

人権問題についての学習経験の有無別でみると、いずれの項目も、学習経験のある人は、学習経験のない人と比べて10ポイント以上高い割合になっています。(2-4①-4)

②知ることになった経緯

【図2-4②　人権に関する問題を知ることになった経緯】



人権に関する問題を知ることになった経緯について、“部落差別”を除いて、「新聞・テレビ等」が最も高い割合となっています。“部落差別”は「学校」が最も多くなっています。次いで、“女性の人権”“子どもの人権”“障害を理由とする偏見や差別”“アイヌの人々に対する偏見や差別”は「学校」、“高齢者の人権”は「行政の情報」、“部落差別”は「新聞・テレビ等」、それら以外（“外国人の人権・ヘイトスピーチ”“ＨＩＶ感染者やハンセン病回復者などの人権”“刑を終えて出所した人に対する偏見や差別”“犯罪被害者とその家族の人権”“インターネットによる人権侵害”“北朝鮮当局による人権侵害問題（拉致問題）”“ホームレスに対する偏見や差別”“性的指向や性自認を理由とする偏見や差別”“人身取引に関する問題”“東日本大震災に起因する偏見や差別”“ハラスメント”“職業や雇用をめぐる人権問題”）の人権問題は「インターネット」が多くなっています。（図2-4②）